

令和2年度シラバス (教科・科目：理科・地学基礎)

68 新潟県立高田南城高等学校

定時制課程	単位数	必履修・選択
午前部	2	必履修

教科書	学習書・他教材
実教出版『地学基礎 新訂版』7実教 地基307	なし

学習目標	
① 地学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高める。 ② 地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。	

学習計画		
学習項目	学習内容	試験範囲(学習期間)
第1章 地球のかたち構成と運動 2節 地球内部の構成 1 地球内部の層構造 2 地球内部の状態と構成物質 3 地殻を構成する物質	<ul style="list-style-type: none"> 地球の内部の層構造、構成する物質について理解する。 地殻は岩石から構成されていることを知る。 岩石には火成岩、堆積岩、変成岩があること、またその分類や成因、性質などを理解する。 鉱物が一定の化学組成をもつ結晶であることを理解する 	前期中間考査 (18時間)
第2章 地球の変遷 2節 古生物の変遷と地球環境 1 初期生命と大気の変化 2 多様な生物の出現と脊椎動物の発展 3 哺乳類の繁栄と人類	<ul style="list-style-type: none"> 先カンブリア時代に起こった地球の大気の変化と、生命の誕生や進化の関係について理解する。 多様な生物が出現した古生代から、は虫類が大繁栄したのち大量絶滅の起こった中生代について学ぶ。 哺乳類が繁栄し、その中から人類が誕生した新生代について理解する。 	前期期末考査 (17時間)
第3章 大気と海洋 1節 大気と運動 1 大気と層構造 2 大気と動きと天気 3節 海洋の構造と海水の運動 1 海洋の層構造 2 海水の運動と循環	<ul style="list-style-type: none"> 大気には層構造があること、大気圧や大気組成について学ぶ。また、各層の特徴を理解し、天気が関係する大気現象が対流圏で起こることを理解する。 大気の状態が変化すること、雲のでき方を理解する。 海洋にも、層構造があることを学ぶ。 海洋にも大循環がある。海水の循環である海流と、地表における水循環について理解する。 	後期中間考査 (18時間)
第5章 地球の環境 1節 日本の自然環境 1 日本列島がつくる自然の特徴 2 自然がもたらす災害と恩恵 2節 地球環境の科学 1 気候変動と異常気象	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島の地形や特徴を復習するとともに、日本の気候(四季)の特徴についても学ぶ。 日本列島で起こる災害と防災、自然がもたらす恩恵について学ぶ。 異常気象や地球温暖化、オゾン層の破壊などの地球環境問題や、エルニーニョ現象などが大気と海洋の相互作用であることを理解する。 	後期期末考査 (17時間)

計70時間(50分授業)

評価規準と評価方法			
評価は、次の4観点から行う。			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③ 観察・実験の技能	④ 知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査に、授業ノート(プリント)の提出とその成果、実験レポートでの理解度を加え評価する。 授業への参加の様子も評価に加える。 			

授業の進め方、課題・提出物など
教科書に沿って解説。実験・実習を多く行い、レポートの提出を求める。

担当者からのメッセージ
真面目にコツコツと学ぶ姿勢を求める。それができない者は決して単位修得もできない。